

2014年（平成26年）4月7日

縁の下の力持ちを称える「第6回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」  
受賞者決定および表彰式開催のお知らせ

功労賞にスポーツ用義足の第一人者を、  
奨励賞に東京2020招致委員会の戦略広報部を選考

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)では、「第6回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」(後援:公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会)の選考を行ない、平成25年度の受賞者について下記のとおり決定しました。

同賞は、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰する制度です。スポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるに相応しい功績をあげ、かつこれまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットをあてています。

なお、「第6回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 表彰式」を、2014年4月22日(火)、東京會館(東京都千代田区)にて開催します。

記

第6回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 受賞者 (敬称略)



[功労賞]

白井 二美男 (義肢研究員、義肢装具士)

スポーツ用義足開発の第一人者として「走る喜び」を提供する挑戦



[奨励賞]

東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 戦略広報部

戦略広報という立場から東京2020招致を支えたプロフェッショナル

第6回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 表彰式

- ◆日時 : 2014年4月22日(火)  
表彰式/15時00分～、交流会/16時00分～ (受付/14時30分～)
- ◆会場 : 東京會館 11F (東京都千代田区丸の内3-2-1)

この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)事務局 Tel.0538-32-9827 Fax.0538-32-1112(担当・望月)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地 <http://www.ymfs.jp>

## ■スポーツチャレンジ賞の概要

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するもので、受賞者のたゆまぬ努力と成果に敬意を表するものです。競技、指導、研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるに相応しい功績をあげられ、且つこれまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットライトをあてています。また本賞では、チャレンジスピリットあふれる受賞者のプロセスやその実像を通して、挑戦(チャレンジ)することの尊さ、大切さや「努力は報われる」ことが社会に浸透していくことを願っています。

	功労賞	奨励賞
対象となるチャレンジ	長年にわたるスポーツ振興への貢献や、先駆者として実績を挙げたチャレンジ	今後のスポーツ振興に大きな影響力が期待される、その年、極めて高い成果を上げたチャレンジ
評価のポイント	長年もしくは過去に行われ、年数を経てから高い成果と認められた尊敬に値する礎的、先駆的なチャレンジであること。たとえば指導者、研究者、審判、ジャーナリストなどによる、その競技やスポーツ全体の底上げに貢献、もしくは海外などで裾野拡大に尽力したチャレンジなど。	短期的、もしくは中期的に行われ、その年に高い評価を受けた賞賛に値するチャレンジであること。たとえば指導者、研究者、トレーナー、サポートメンバー、審判、ジャーナリストなどによる世界レベルの成果を発揮するにあたり、重要な役割を果たしたチャレンジなど。
賞金/副賞	賞金 100万円(団体の場合は200万円) 賞状・メダル / 副賞	

## ■ 歴代受賞者 (敬称略)

	受賞者		分野	選考の理由となったチャレンジテーマ
第1回 平成20年度	功労賞	中野 政美	柔道指導者	女子柔道の世界レベル選手の育成と女子柔道の発展
	奨励賞	丸山 弘道	車いすテニス指導者	北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ
第2回 平成21年度	功労賞	塚越 克己	スポーツ医・科学研究者	日本のスポーツ医・科学の発展を牽引した「縁の下の力持ち」
	奨励賞	増田 雄一	アスレティック・トレーナー	トップレベルのサポート技術を一般レベルに拡大する取り組み
第3回 平成22年度	功労賞	高田 静夫	サッカー審判員	日本人審判員の育成をめざした各種制度の確立と運用
	奨励賞	中村 宏之	陸上指導者	雪国から世界をめざすトレーニングの独自開発と実践
		中北 浩仁	アイススレッジホッケー指導者	強化システムの大改革で日本初のメダル獲得にチャレンジ
第4回 平成23年度	功労賞	岸本 健	スポーツ写真家	スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献
		水谷 章人	スポーツ写真家	独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力
	奨励賞	(該当なし)	—	—
第5回 平成24年度	功労賞	樋口 豊	フィギュアスケートコーチ、振付師、解説者	国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの「開国」に貢献
	奨励賞	江黒 直樹	ゴールボール女子日本代表チームヘッドコーチ	「楽しいリハビリスポーツ」の普及をめざした 日本女子ゴールボールチーム 金メダルへの挑戦

## ■ 選考委員会 (敬称略)

選考委員長	選考委員	選考委員	
浅見俊雄	東京大学名誉教授 日本体育大学名誉教授	小西由里子	国際武道大学体育学部教授
西田善夫	スポーツアナリスト (元 NHK 解説委員)	定本朋子	日本女子体育大学大学院研究科長 基礎体力研究所長・教授
福永哲夫	鹿屋体育大学学長 / 東京大学名誉教授	田原淳子	国土館大学体育学部教授
伊坂忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部教授・副学部長	山本裕二	名古屋大学総合保健体育科学センター教授
景山一郎	日本大学生産工学部教授	ヨコゼッターラント	嘉悦大学女子バレーボール部監督(元バレーボール選手)
草加浩平	東京大学大学院工学系研究科特任教授	今給黎教子	海洋スポーツインストラクター / 冒険家
篠原菊紀	諏訪東京理科大学共通教育センター教授	村田互	専修大学ラグビー部監督 (元ラグビー選手)
綿貫茂喜	九州大学大学院芸術工学研究院教授	杉本龍勇	法政大学経済学部教授(元陸上選手)
衛藤隆	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所所長 / 東京大学名誉教授	丸山弘道	名古屋グリーンテニスクラブディレクター
遠藤保子	立命館大学産業社会学部教授	高橋義雄	筑波大学体育系准教授
川上泰雄	早稲田大学スポーツ科学学術院教授		

※競技団体、大学、報道機関、ジャーナリスト等から候補者の推薦を募り、2回の選考委員会を経て決定

第 6 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞

## スポーツ用義足開発の第一人者として 「走る喜び」を提供する挑戦

うすい ふみお

臼井 二美男 義肢研究員、義肢装具士（1955 年生・群馬県出身）

かつて日本では、義足は生活するための必要最低限の保障であり、歩き、移動するためのものだった。鉄道弘済会義肢装具サポートセンターで義肢装具士として働いていた臼井氏は、1989年にオーストラリアで開かれた国際義肢学会で義足のアスリートと出会う。歩くための装具で走る姿を目の当たりした臼井氏は衝撃を受け、これを契機にスポーツ用義足の開発を開始する。同時に大腿切断患者約 1,000 人を対象とした国内調査を行い、義足を使って交互に足を出せる人が「ほぼゼロ」であることを把握した。

アメリカの学会誌などを参考に独学でスポーツ用義足の研究を進めながら、臼井氏は 1991 年、切断患者対象の陸上クラブチーム「ヘルスエンジェルス」を創設。休日を返上して練習会を重ねることで、このトレーニングを通じてこれまで約 130 人が「走る喜び」を再び手に入れた。この活動について臼井氏は、「彼らに力強く生きてもらうための手伝いが目的。アスリートの育成が主眼ではない」とその意義を話すが、やがてクラブからは鈴木徹選手（走り高跳び）、佐藤真海選手（走り幅跳び）、中西麻耶選手（走り幅跳び、短距離）、藤田征樹選手（自転車）ら多数のパラリンピック選手が誕生し、世界を舞台に活躍するようになった。2004 年アテネ大会からの 3 大会では、日本選手団の義肢メカニックとして現地サポートも行っている。こうした中、アテネの会場で独自の構造を持つ臼井式の義足を海外トップ選手が装着しているのを見た鈴木選手は、「世界が臼井さんを追いかけ始めた、と感じた」と振り返る。

臼井氏がスポーツ用義足の開発を開始してから四半世紀。障害者スポーツの認知は徐々に高まり、臼井氏を師としてその背中を負う若者も現れ始めている。現在は若い二人の義肢装具士が臼井氏とともにスポーツ用義足の製作に取り組みながら、合わせてヘルスエンジェルスの運営サポートを行っている。

28 歳で鉄道弘済会義肢装具サポートセンターに就職。一般用途の義足の研究・開発・製作を行うとともに、30 代半ばから独学でスポーツ用義足の研究を開始。アメリカから部品を取り寄せるなどして国産初のスポーツ用義足を完成させた。以来、スポーツ用義足の性能向上に取り組むとともに、切断患者に「走る喜び」を提供することを目的とした陸上クラブチームを創設。クラブの主宰者として現在までに約 500 回の練習会を重ねている。現在も鉄道弘済会義肢装具サポートセンターで約 400 人の義足使用者を担当するが、その 9 割はスポーツと無縁の人々であり、そうした患者に生活保障のための義足を提供している。

第 6 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 奨励賞

## 戦略広報という立場から 東京 2020 招致を支えたプロフェッショナル

### 東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会 戦略広報部

2011 年 9 月に設立された東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会は、行政、民間、スポーツ界、各団体などから 2 年間限定で集まった約 40 名の組織だった。その中で、各種プレゼンテーションの支援、海外メディア対応、国内支持率アップ等の業務を担い、それらのための PR 素材の作成やソーシャルメディアによる情報発信を行ったのが鈴木徳昭部長をリーダーとする戦略広報部 10 名だった。

招致活動では二つの大きな課題があった。一つは 2012 年 5 月の時点の国内支持率がわずか 47%であったこと。戦略広報部では、調査の結果から主要ターゲットを若年層と女性層に絞り込み、さらにロンドンオリンピックの余韻を最大限に活用して徹底的なメディア露出拡大戦略を実行に移していった。50 万人を集めた銀座パレードでの PR はその象徴的な活動の一つとなり、これを契機に上昇に向かった支持率は 2013 年 1 月の独自調査で 73%まで高まった。

もう一つの課題は、「なぜ東京で開催するのか？」(WHY)という開催理念の問題だった。「どのように運営するのか？」(HOW)については、東京は当初からダントツの評価を得ていた。しかし一方で「開催理念が伝わって来ない」というメディアの声は小さくなかった。これに対して戦略広報部では、東日本大震災によって「スポーツの力」を再認識した点を強調する戦略を策定。多くのアスリートが被災地支援を行った日本だからこそオリンピックの価値を次世代に継承することができ、IOC のパートナーとして相応しいと訴えた。2013 年 1 月 10 日にロンドンで開いた記者会見では、国際メディア 35 社を含む計 63 社 105 名の前でこの「WHY&HOW」について胸を張って説明した。

こうして万事を尽くしたはずだったが、最終プレゼンテーションの直前には、海外メディアや IOC 委員から汚染水問題が指摘され、招致は最大のピンチを迎えた。しかし状況を冷静に捉え、「誰が」「いつ」「誰に対して」「どのように(どのような機会に)」メッセージを発信するかについての戦略を立案し、それを実行することで最大のピンチを脱した。

招致活動の集大成となる最終プレゼンテーションでは、プレゼンターの選出から始まり、プレゼンターへのプレゼンテーショントレーニングやメディアトレーニングを実施した。高円宮妃久子さまからの感謝のスピーチ、佐藤真海選手によるスポーツの力、竹田恆和理事長による日本の道徳教育、水野正人専務理事による東京ならではのコンパクトな開催、猪瀬直樹都知事による東京の魅力、滝川クリステルさんによるおもてなしの心、太田雄貴選手による選手目線の運営、さらに安倍晋三首相による力強い政府保証、再び竹田理事長が登壇し、自分もオリンピックであること、そしてスポーツを通じた日本の国際貢献を約束する「Sport for Tomorrow」を紹介し、最終プレゼンテーションを終えた。

招致委員会で唯一、2016 年の落選を経験し、現在は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会で戦略広報課長を務める高谷正哲シニアディレクター代行(当時)は、「コンサルタントの指示で右から左に業務をこなすことで精一杯だった前回に対し、今回は立ち上げ当初から全体像を理解した上で仕事ができる。一つひとつの仕事の質を高めるというスタンスは、最終プレゼンテーションでも活かされたと思う」と語り、組織委員会での活動についても「招致活動において我われは IOC や国際スポーツ界に向けて多くの約束をした。特に『復興活動の一環で日本のスポーツ界があらためて認識したスポーツの力を世界に向けて発信することで、社会におけるスポーツの価値向上に貢献する』という大きなビジョンについては、しっかりとその責務を果たしていかなければならない」と語る。

**戦略広報部メンバー:** 鈴木徳昭(国際・戦略広報担当部門長 兼 戦略広報部部長)、高谷正哲(シニアディレクター代行)、西村亮(副部長/国内広報ディレクター)、首藤久雄(国際広報ディレクター)、宮脇奈緒(スーパーバイザー)、江上綾乃(スーパーバイザー)、里博美(スーパーバイザー)、松波暁子(マネージャー)、森岡宏太(マネージャー)、柴田若菜(シニアスタッフ)